杜に想ふ

建国の理念

山谷えり子

二月十一日建国記念の日には、各地で奉祝式典がおこなはれてゐる。

二千六百七十四年前、神武天皇は御即位にあたり「橿原奠都の詔」で、建国の理念を語られた。大きく三点あり、一つは、ひとり一人を〝おほみたから〟と呼び、幸福を願はれたことである。二つめは徳のある国づくりをし、三つめに世界中が大家族のやうに仲良く平和に暮らせるやうにとの決意を述べられた。今風に言へば、人間尊重、道義国家、平和主義といふことだらう。

福井の小学生であった頃の私は、紀元節には学校でお饅頭をいただき、「建国の話」に湧きあがる喜びを感じたものであった。しかし今日では、建国についての知識を持たぬ若者がほとんどである。フランス革命の「自由、平等、博愛」や、リンカーンの民主主義演説などは語れても、歴史と普遍的理念と共にあるわが国の国がらを伝へきれてゐないのは、まことに淋しいことである。何年か前の建国記念の日、子供の友人たちが遊びにきたので、「今日は何の日か知ってゐる？　初代・神武天皇が御即位された日。今上陛下は百二十五代目でいらっしゃるの。日本は世界で最も長く豊かな伝統、文化をもつ国なの。だから美意識や技術力が抜群でせう？」と建国の理念なども説明すると、初めはキョトンとしてゐたものの、そのうちへエーッといふ顔になり、「さういふことを学校で教へてくれたらいいのにね」と言ってきた。大人の伝へる責任を感じたものである。

そこで、自民党は、このたび建国記念の日奉祝行事のあり方を考へる勉強会を発足させることとした。かつて、昭和四十一年に「建国記念の日奉祝会」が発足し、神武天皇建国の意義啓発、奉祝行事の全国展開がおこなはれてきた。昭和五十三年からは、奉祝式典を総理府、文部省、自治省が順次後援し、式典の中で神武天皇陵拝礼もおこなはれた。昭和五十九年からは首相の式典参列に向けた動きも起きたが、この動きは次第に困難をかかへる状況となっていったのである。

昨年は富士山、三保の松原が世界文化遺産になった。これは山の形や白砂青松が美しいといふだけでなく、崇高な山や海を繋がりの心でとらへ、美しい祈りの国がらをつくってゐることがユネスコに理解されたのである。また、無形文化遺産となった和食も、健康的で美味といふだけでなく、季節感や天地の恵みを「戴く」といふ心、深い信仰より発せられる文化そのものが無形文化遺産として敬意をもってとらへられたともいへるだらう。かうした日本文化を「常若」のみづみづしさをもって理解していただくことこそ、建国の理念に繋がることと考へる。

コンピューター上の数字の移動による危ふい資本主義とは違ふ「瑞穂の国の資本主義」を、建国の理念を思ひながら広めたい。

（参議院議員、神道政治連盟国会議員懇談会副幹事長）